



発行日：平成 25 年 10 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第 13 回川部会 WG（地先の課題モデル 2 回）を開催しました！

9 月 22 日に開催された第 13 回川部会 WG では、地先の課題を対象として現地調査を行いました。各地の活動団体の代表者から説明を伺い、市民や学識経験者、行政などの方々により、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 9 月 22 日（日）10:00～16:00  
集合場所：新豊田駅西口ロータリー内  
調査場所：矢作川本川（豊田市内）  
参加者：20 名（事務局含む）

### ◆WGで議論した主な内容

- 今回の現地調査では、豊田市の各活動を見て回ったが、結果があがっている状況を確認できた。また、行政のバックアップが重要であると感じた。
- 大きい工事（管理用通路、広場整備など）は豊田市が行い、その後の利用や維持管理は、各地の活動団体にがんばってもらっている状況を確認できた。
- 豊田市では、実績を積んだ活動団体（現在 18 団体）を登録し、維持管理活動に対して、報償費を支払っている。
- 御立公園（白浜工区）の場合、拡幅工事の中で環境にも配慮しようと、施工時にワーキングを開催して地域の方々との協議をして整備した。矢作川森林塾とアドプト制度を利用して、機材の支援等を行っている。現在は、豊田東高校と連携するなど若い世代にも活動の輪が広がりつつある。
- 民間と行政が屈託のないやりとりを行っていくことが、活動をうまく進めていくコツである。

### ◆主な意見交換内容（●意見 ▶回答）

#### 現地調査



#### （1）古鼠水辺公園

古鼠水辺公園愛護会の村山氏より、樹木伐採箇所の対応方針について説明を伺いました。

- もともと、自分の居場所を川辺につくるために一人で活動していたが、水制工整備に合わせて、長老たちが指揮をとって 30 人ほどが集まり、活動が活発化した。
- タケを伐採すると、頂部にしか葉がない木が残ったが、時間が経つと風格ある木になってきた。
- タケの根絶には、15 年ほどを費やした。タケを割って腐らせると効果的であった。
- 昔と比べて、川の水位は低下し、貯木場にも 1 m 程度の水深があったと思う。



古鼠水辺公園での説明の様子



台風 18 号の出水でなぎ倒された竹林

- 昔、矢作川研究所が設置した水制工などの説明標識があり、わかりやすい説明や古地図が記載されていたと思う。いつの間になくなっていく。（内田）
  - ▶ 過去の洪水で流されてしまった。（愛護会）
  - ▶ 矢作川研究所に説明標識の元版があるか確認してみる。（洲崎）
- 利用マナーについて、土日の利用者が多いため、日～月曜日は見て回っている。利用者が 100 組いれば、1～2 組不届き者はいる。いい状態に保つことが、マナー違反の抑止につながる。（愛護会）
- 行政とのかわりについて、市も県も協力的で、市河川課が調整してくれたことがよかった。台風などで壊れて地元の手には負えないときには、行政が動いてくれる。（愛護会）



元々の竹林のイメージ

- ・行政と地元が信頼関係を築くことが重要で、地元でやりたいことは、地元が先行して進めることでこれまでうまくやってきた。(愛護会)
- ・市公園課から公園の維持管理費用として補助をもらい、草刈り等の費用にあてている。

## (2) 有馬水辺愛護会

- ・上流部の4団体は、河川課が整備する時に、矢作川研究所が地元呼びかけ、地元が応えてくれたことで実現した。中流部の団体は、矢作川研究所で生物に配慮した管理をやりましょうという提案をし、応えてくれる団体もいる状況である。(洲崎)
- ・豊田市の合併を機に、矢作川上流の生物調査を実施し、貴重な生物がいることがわかった。
- ・豊田市から呼びかけ、4団体が応える形で活動がスタートした。(洲崎)
- ・集落の全戸が愛護会に入っており、活動が盛んな団体の一つである。(洲崎)

## (3) 小渡水辺愛護会

- ・平成19年に上流部の河川整備を行う際に愛護会が発足し、豊田市・矢作川研究所によりワークショップが開催され、平成20年からタケの伐採、管理用通路、広場の整備が進められている。(洲崎)
- ・道路の凍結防止や眺望確保のため、法面の竹林の伐採を進めている。ときつえの部落の方も、通勤等に使用する道路であり、愛護会のメンバーになり活動している。(愛護会)
- ・過疎地域にとって、観光は有効な手段であるが、一時的であるため、継続して続けることが必要である。(愛護会)
- ・刈ったタケは、竹灯笼や松明行列、こいのぼりなどの地域行事に使用するようになった。イベントで楽しまないと、ただ竹を切って維持管理するだけではもったいなく、活動が続かない。(愛護会)
- ・最近では、小学3年生に竹切り体験などを行っている。(愛護会)



小渡での意見交換会の様子



しるしをつけた稚樹

## (4) 御立公園(白浜工区)

矢作川森林塾の裕氏より、公園について説明を伺いました。

- 都市の河畔林となるよう活動している。
- 整備後に生える植物の多くは外来種であった。矢作川研究所が作成した図鑑を携帯用にパウチしたカードを確認しながら、外来種を駆除している。
- せせらぎの方は、いろんな種が生えてきていたが、台風18号でほとんど流されてしまった。
- 毎週、20~25人が集まり活動している。
- えのきの稚樹は、次世代を担う樹木となるよう、刈らないように棒を立てしるしをつけている。
- 伐採したタケは、竹チップの通路をつくろうと考えている。



台風18号の出水で埋もれた水路

## 今後の川部会 WG の予定



### ■第14回(本川モデル)現地調査+意見交換

日時：平成25年10月18日(金)13:00~  
内容：懇談会として、どんな瀬・淵がよいか、あり方を検討する。

### ■第15回(家下川モデル)現地調査+意見交換

日時：平成25年11月26日(火)13:00~



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@iijnet.or.jp)までお送りください。

